



狂歌集

名家生写



利9  
24/18  
/





特列



利 9  
2418  
7-2



年一歳花如似  
歳一歳花如似  
歳一歳花如似  
歳一歳花如似  
歳一歳花如似  
歳一歳花如似  
歳一歳花如似  
歳一歳花如似  
歳一歳花如似  
歳一歳花如似



音反入尊意家の下は  
轉き傳へし心とせし  
之のさるる一申す也  
此道よりさるる本  
凡柳亭号九人法

詩之歌人書画を可也  
三子一の文書と書  
應之帝 狂歌之  
人

天孫  
中  
人





狂歌早鳥



夜も  
鳥の  
如

て  
あ  
る

て  
あ  
る

庭の  
せ  
ら  
に  
あ  
る



百方癩水

此藥能治一切癩瘡  
不論新舊一搽即愈

此藥能治一切癩瘡  
不論新舊一搽即愈

此藥能治一切癩瘡  
不論新舊一搽即愈

此藥能治一切癩瘡  
不論新舊一搽即愈

此藥能治一切癩瘡  
不論新舊一搽即愈



羨

れ

め

二行目  
油生店

新

一

め

い

あ

一

七十三巻

少

龍

あ

い

あ

あ

い

あ



葛水

竹葉

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

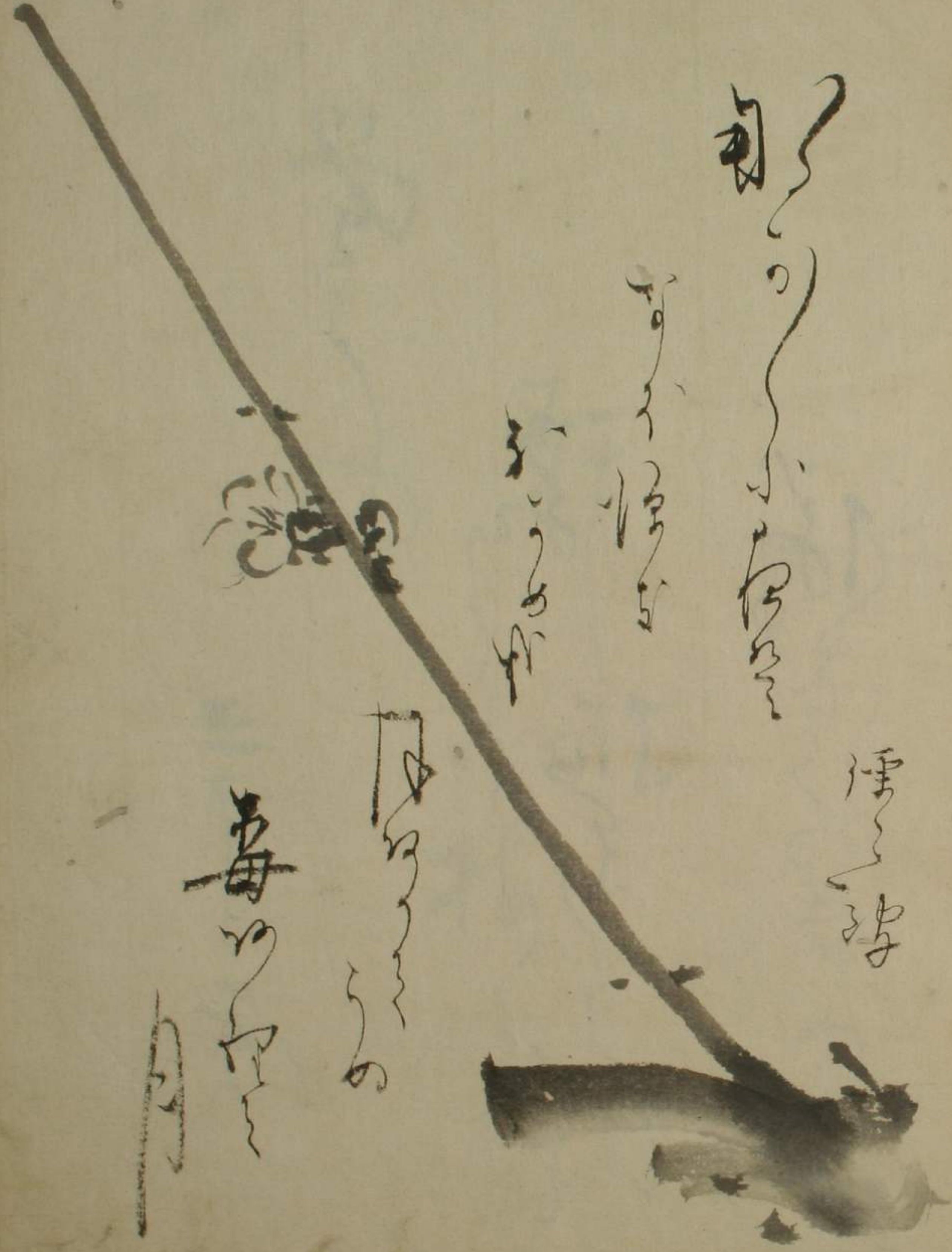
子

子

子

子





刻  
の  
こ  
の  
こ  
の  
こ

の  
こ  
の  
こ

の  
こ  
の  
こ

清  
の  
詩

毒  
の  
心

の  
こ  
の  
こ

の  
こ  
の  
こ



南  
枝  
景



軒  
梅の香

かきく白

備

孤

考

三



美 尋 是 物 純 顯

者 板 大 刀 匪 魏

丹<sup>丸</sup> 居 舍 變 約 束

嘗 板 又 賣 齒 磨

互 魏 丹

見 居 舍 板 心

魏 志 國



少花  
柳山亭



桂林  
音高

登

麓

石

路

一

加

五





之書の

之書の

海山

山

花

五十四

林

之書の  
良枝

好

之書の

之書の

書

之書の



市万松

あつたはなうしうの  
ゆきまきく小田のまを  
志あふくらむ

いづれ  
世の

旅の

峰  
ね



五月廿

夜とまきへ

深山かゝる

葉の秋

ありまを

いんり

廿

紫蘇の穂

秋の

実の



風蕙歌

海舟

海舟

海舟

海舟

心のなまじり

心なまじり

心なまじり

瀧西本子文





友愛の徳

海つよよせしめ

招よあ

手風と厭ふ

茶の志盡

徳道中尾中  
物於子湯

水車と水車

徳道中

物と物

心と心

まゝとまゝ

まゝとまゝ



心  
人  
草

和  
人

心  
人  
錫

月  
花  
子

人  
泉  
金

下  
人  
花  
子

人  
泉  
金

人  
泉  
金

人  
泉  
金



進之動之集  
不放太鼓三  
然歌來穆王  
以駿尚閑口

東西南北一  
時回咀

題卷駢  
萬劫交飛



とろろの種あ

糸梅

花は赤のまゝ

とる梅

いそ和民をうら

おろろのあわく

向女目心檀

乃

初出

星

成







多  
少

多  
少  
之  
夜

少  
多

少  
多

多  
少  
之  
夜

多  
少

少  
多  
之  
夜



世あ

新  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ



くわんていしん

うまのていしん

くわんていしん

くわんていしん

くわんていしん

くわんていしん

くわんていしん



孝道

梅

孝道

孝道

孝道

孝道

孝道

孝道

孝道





菊名重陽冒雨  
一弄

年步



文煒寫





長生ノ華

花ニ

西月影

夕由縁

花

花

花

花

花

花

昔のり久を

花

花

花

花

謝安園記



中

松園

辰

辰

生鮮

娘夫、瀉人

桑舎

芳野人 千秋

東

中

花の



か  
か  
か  
か

は  
は  
は  
は

あ  
あ  
あ  
あ

い  
い  
い  
い

う  
う  
う  
う

え  
え  
え  
え

道  
道  
道

世  
世  
世

水  
水  
水  
水

ろ  
ろ  
ろ  
ろ

の  
の  
の  
の

か  
か  
か  
か

あ  
あ  
あ  
あ

う  
う  
う  
う

浅  
浅  
浅



物

物

物

物

物

物

物

農人

物

物

物

物

物

物



七午

雞過五  
事

刀ねれ子と海ありん

待ねと

鳥さる  
にさる

夕暮少のあさ

梅をさる

あさる

梅の似し  
花のさる

あさる

あさる

あさる  
人



龍波の力

うきうき

うきうき

うきうき

うきうき

うきうき

うきうき

毎うきうき

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

龍波の力



南内川

萬年史

三十一頁

万々々々々々

万々

万々々々

万々々

万々々

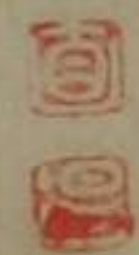








樂山軒





あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで



采林





ひまわり

うさぎ

駒馬

おもしろい

おもしろい

おもしろい

会社

権国  
中

同

おもしろい

おもしろい

おもしろい

おもしろい

おもしろい

月

禁



運の子

一の子

一の子

一の子

一の子

子の子

子の子

子の子

子の子

子の子

子の子



仙遊

安月新 辰子

備

余所安

つぎ

林

南大

の

草

木

うけ

不可得 菴 了 沙 寺







木蘭

















一、子以細

子編

五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

一、子以細

一、子以細

一、子以細



龜  
年  
畫



常  
盤  
形

之  
編

相  
如  
之  
下

之  
下

之  
下

之  
下

之  
下



一毛山居も

司馬口序  
出直

腹

身

た

一毛

年節

今

も

た

十

山



かま

ま

い

た

年

全評



地

層

石

の



六

の

か



一初

初

子

中

美

子

神

子



殘

之

真

暖  
淡  
海  
山  
西  
水

那

那

羽  
終

あ  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん



老子改世のつらさ

のつらさ

入道

書

小町様のおはなれ



木のほころ

ゆりとも

かして

12 ちらに若り

しひして

及ち







山

山

すまゝの

あつら

花身

り種

陽田川の柳枝  
見よ申すてく  
く〜曲す付  
よち〜田文歌

俣風

友

いづれ

くさ

乃





今物丁巳の経済

。 。

○。 。

。

直成





富士山



東洋橋門五

三子の妻

寛快



一

二

三

四

五



嘉永六年辛酉秋霖  
其礼雪降辰如令宜  
積之入未覺書之為  
新初雪物之而後東水  
竟

子入家充簡編竹管  
拋何處唯對古燈少力

癸丑正月自十二日至十八日  
雪同賦二絕

法華道人題



之入花地

之伐去去以形

之殿也

之打團

之在備乃

之去之

之

之解乃

之花在

之補

之

之葉如

之國毛

之乃月。

之



たか  
たか

the passage in question

たかたかたかたか

たかたかたかたか

たかたかたかたか

たかたかたかたか

たかたかたかたか

たかたかたかたか

たかたかたかたか

たかたかたかたか

たかたかたかたか



松之舟

岩堆

多々々々

かの哉河にさよ

たしききききき

岩の初々

陣の斗々

掃

とてたあが

お生孫





脊成中統

結持

肩字如

~~~~~

中~~~~~

~~~~~

柳

千種

深

~~~~~

練

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~







如  
是  
之  
神  
也

其  
心  
之  
神  
也

其  
心  
之  
神  
也

其  
心  
之  
神  
也

其  
心  
之  
神  
也

福  
壽  
長  
壽



其  
心  
之  
神  
也





文  
長  
紅印



根  
の  
つ  
ま  
ら  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま  
の

紅印



十ハ三己セ

山ノ下ノ花

花ノ下ノ山

梅札  


名下花

山ノ下

山ノ下

山ノ下

山ノ下

山ノ下

山ノ下

山ノ下

山ノ下



若  
信  
氏  
信  
氏  
信  
氏  
信  
氏  
信  
氏  
信  
氏





凡松亭入あしし日おの

君子の風流をあひた

いふ婦やつとせしはり

くまのくまの如く如く

雅君入行来たあ、色はうた

す之をい故かしし、世を

あしし如く

凡松亭

青柳の哉よ

目あし

七五二

あしし如く





春興歌詠中 爾

臨陽公多回門

新發三少能

暮年心以

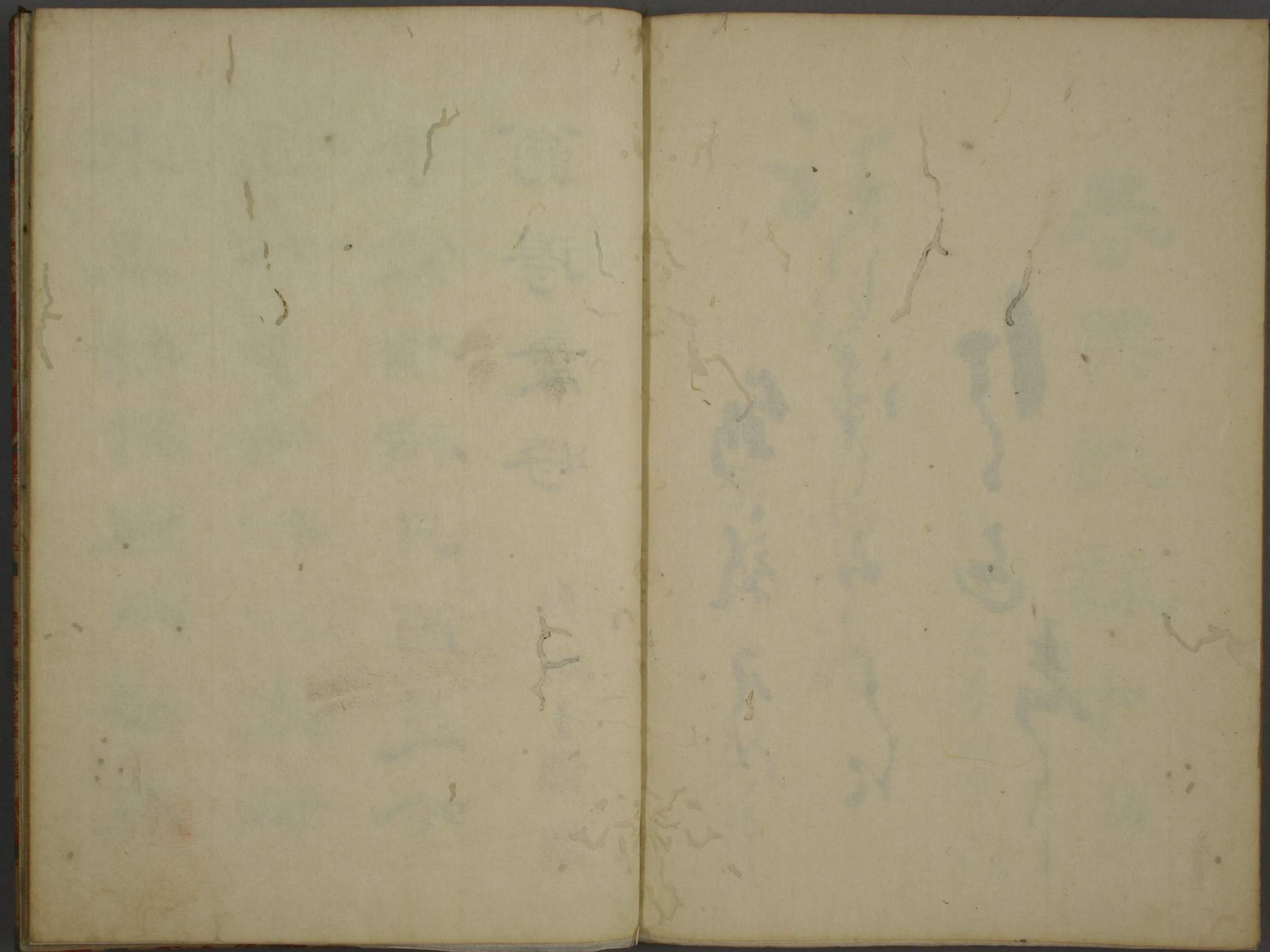
到氣乃

一洋子

行也

春





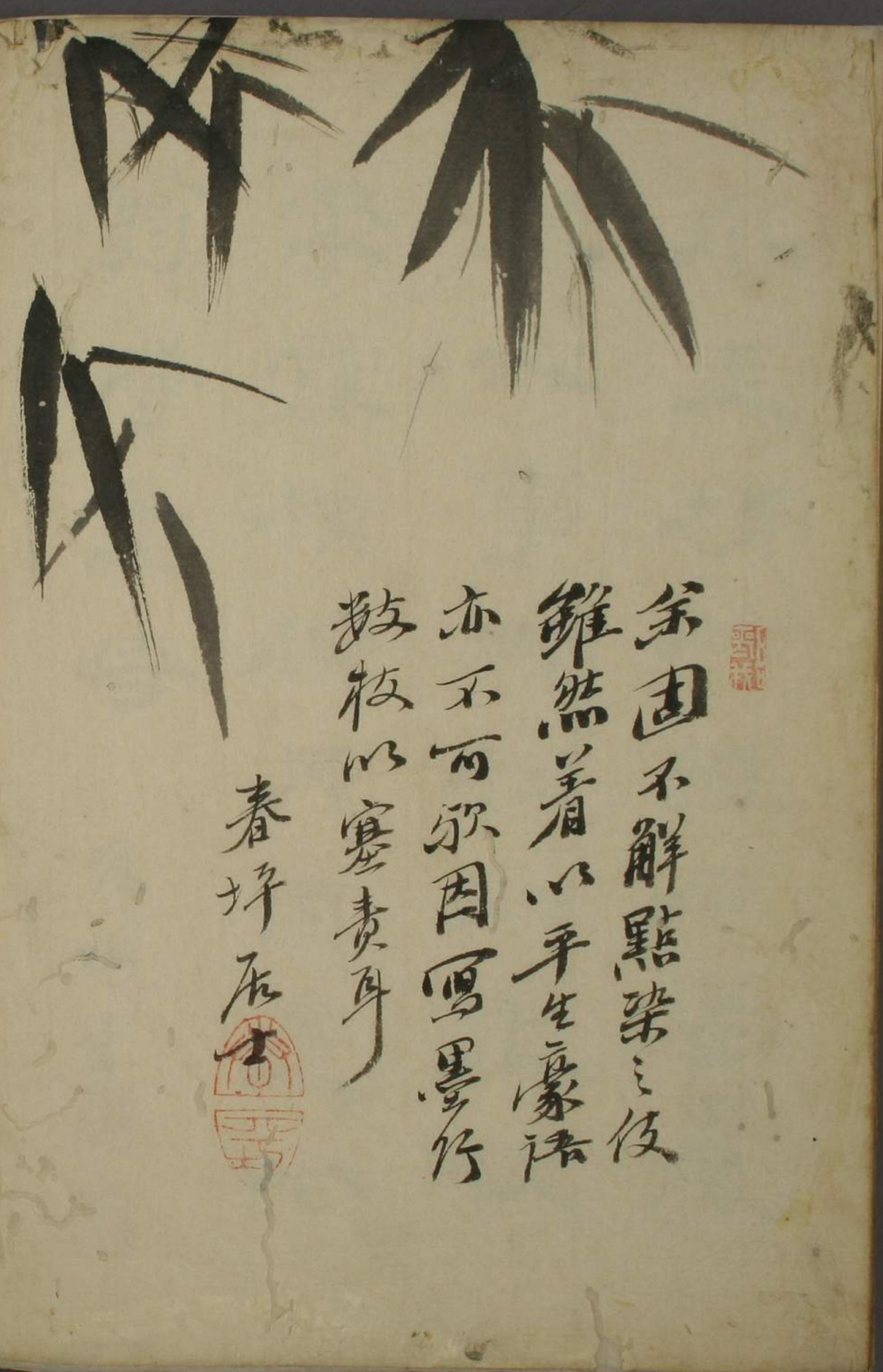


冰玉精神鐵石姿歲  
寒心事兩相知  
老枝  
繁雪梢橫月箇是吟  
翁得意時

唯梅畫







余固不解黠染之伎  
雖然着以平生豪語  
亦不可因寫墨竹  
致致以塞責耳

春坪居士





秧水看  
趁雨未秧

鷄穀  
如如催插嘴

老媪  
無情趣  
不唱

秧歌  
只漫裁

柳秧詞  
十首之一

雲如山人





田文  
故

今蘇

燕梨園

長  
却  
花  
繁  
み  
の  
ま  
る

戸  
は  
し  
て  
幾  
の  
ま  
る

の  
ま  
る  
田  
文

笑  
々  
雅  
蘇  
の  
歌





凡縁二名しやうせいの

たふらぬ風松ありてお

象てのいふや年をあら

殿芽を角くし喜ぶあは

去女無校のち由字をい

直教を柳の妓女乃小唄ニ

柳櫻さし手交るを彼く

法師の古歌よき侍柳乃

はのちちあま九烈を待

きふくくこのう禁断を



子さくしんから以英傑の御書

向家宗三無事板の巻二

梅の白紙を便りけねるの巻

早かきとておぼたむすむす

もよおし 龍宮もよおし





